

# 海外からの報告

\*現在までの海外会員はオランダ、イタリア、アメリカ、フランス、ドイツ、ベルギー、ニカラグア、スペイン、イギリス、ニュージーランド、オーストラリア、ベトナム、スイス、フィンランド、デンマーク、インド、タイ、イスラエルの計18カ国です。

## スペイン

フランス講座のあと、四月六日～七日には、運営委員の野坂悦子が本誌でも何度かご紹介したパンプロナ市（スペイン）へ初めて足をのばし、ミニ講座を行いました。会場はナヴァラ州立ヤマグチ図書館、バスク語教育センター（EIBZ）、CIVICAN文化センターの3箇所です。図書館とEIBZでは、それぞれスペイン語とバスク語の翻訳を付けた紙芝居作品の貸し出しが始まります。カルメン先生の指導によって、4年前から紙芝居に親しむようになった市内のサンファンデラカデナ小学校でも、紙芝居は大歓迎されました。

## マカオ（中国）

二〇〇六年九月二十日～二十四日、CBBY（中国国際児童図書評議会）主催によりマカオで開かれたIBBY（国際児童図書評議会）第三十回世界大会に、紙芝居文化の会として二名（運営委員野坂悦子・永瀬比奈）が参加。『おおきくおおきくおおきなあれ』を実演し、紙芝居の形式と特性、歴史などを英語で発表しました。約六十カ国からの参加者があつた大会でも、共感の世界は、十分に届いたようです。



バスク教育センターにて教師たちを前に、主催者が日本の紙芝居を実演



サンファンデラカデナ小学校の講堂にて。奥の女性がカルメン先生。（スペイン）



紙芝居を楽しむ、世界中から集まった大会参加者（マカオ（中国））